

CKD 患者における 24 時間自由行動下血圧に関する臨床評価

東京都済生会中央病院腎臓内科¹ 東急病院² 東京慈恵会医科大学腎臓高血圧内科³

○吉澤威勇¹(ヨシザキ ケイユウ) 原洋一郎³ 菅野直希³ 末次靖子³ 遠藤 聡³ 高根紘希³
高橋康人³ 徳留悟朗² 大野岩男³ 栗山 哲¹ 細谷龍男³

【目的】

今回 24 時間自由行動下血圧 (ABPM) にて CKD 患者の高血圧の特徴を検討した。

【方法】

高血圧を合併した CKD 患者の血圧の日内変動を ABPM を用いて測定した。得られたデータを最大エントロピー法の理論に基づいた時系列解析データシステム MEM で解析し CKD 患者の高血圧の特徴を検討した。

【結果】

Hyperbaric Area は HD 群 (平均値 ; 619.6mmhg.h/day) では時間の経過とともに増大傾向を示していたが、非 HD 群 (平均値 ; 487.3mmhg.h/day) 、PD 群 (平均値 ; 764.7mmhg.h/day) ではほぼ一定であった。同様に Acrophase に関して、HD 群では上昇傾向にあったが、非 HD、PD 群では一定であった。Amplitude に関して、HD、PD 群では比較的縮小傾向にあったが、非 HD 群では増大傾向にあった。Variation Index は HD 群で 8.17%、PD 群で 8.62%、非 HD 群で 17.25%であった。

【結論】

HD 群では non-dipper type の傾向にあり、また血圧は非透析中上昇傾向にあった。HD 群では他群と比較しより厳格な血圧管理を行う必要がある。